

びわ湖環境ビジネスメッセ2017 共催セミナー

環境保全へのグローバルな問題の解決に向けて

日時：平成29年10月19日(木) 10:30～12:45

場所：びわ湖環境ビジネスメッセ会場内

長浜バイオ大学ドーム セミナー室①

(滋賀県長浜市田村町1320) JR北陸線田村駅より徒歩約5分

無料

琵琶湖を持つ滋賀県は環境保全の最前線に立っている地域の一つです。水圏環境への外来生物の侵入やマイクロプラスチックによる汚染は、世界的にも深刻な問題になりつつあります。滋賀バイオ産業推進機構(SBO)では今後の環境保全に向けた取り組みの一環として、これらの現状への日本の取り組みを紹介し、今後の方向を議論します。

「琵琶湖における外来動植物対策の現状と課題」

滋賀県琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 専門学芸員 中井 克樹 氏

「琵琶湖で猛威を振るうオオバナミズキンバイの生態」

東洋大学文学部英米文学科 准教授 金子 有子 氏

「ペットボトルを分解する細菌の発見とその分解機構の解析」

京都工芸繊維大学 名誉教授 小田 耕平 氏

○コーディネータ 横田 明穂 氏

(奈良先端科学技術大学院大学名誉教授、滋賀バイオ産業推進機構理事長)

申込方法

びわ湖環境ビジネスメッセホームページからお申し込みください。

URL:<http://www.biwako-messe.com>

10:30	趣旨説明 滋賀バイオ産業推進機構 理事長 横田 明穂 氏
10:35	<p>「琵琶湖における外来動植物対策の現状と課題」</p> <p>滋賀県琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 専門学芸員 中井 克樹 氏</p> <p>(概要)世界のグローバル化は、さまざまな外来種問題を世界各地でグローバルに引き起こしています。琵琶湖では、オオクチバスの爆発的増加と並行した在来魚類の激減の後ブルーギルが台頭し、沿岸域の風景はオオバナミズキンバイの大繁茂により激変しました。今回は、こうした外来種問題に対応した法令整備を含めた対策と課題を概観します。</p>
11:05	<p>「琵琶湖で猛威を振るうオオバナミズキンバイの生態」</p> <p>東洋大学文学部英米文学科 准教授 金子 有子 氏</p> <p>(概要)ルドウィジア・グランディフロラ(オオバナミズキンバイ等)は真正双子葉類のフトモモ目アカバナ科チョウジタデ属に属する多年草です。1800年代より原産地以外の欧米各国で野生化し、侵略的外来種として知られてきました。琵琶湖で見られる亜種ウスゲオオバナミズキンバイを中心に、本種の分類や生活史特性を紹介します。</p>
11:35	休憩・準備
11:45	<p>「ペットボトルを分解する細菌の発見とその分解機構の解析」</p> <p>京都工芸繊維大学 名誉教授 小田 耕平 氏</p> <p>(概要)ポリエチレンテレフタレート(PET)は石油を原料とする生物分解困難な樹脂で、ペットボトルや衣服等の素材として汎用されています。PET製品の一部はリサイクルされていますが、その多くは破棄・焼却処理され環境汚染を引き起こしています。演者らは、このPETを食べる細菌を発見し、その分解の仕組みも解明しましたので紹介します。</p>
12:35	総合討論・質疑応答 (12:45終了)

日 時 平成29年10月19日(木) 10:30~12:45
 場 所 長浜バイオ大学ドーム セミナー室①(滋賀県長浜市田村町1320)
 申込締切 10月17日(火)
 申込方法 びわ湖環境ビジネスメッセWEBページから来場事前登録のうえ、
 セミナーにお申し込みください。
 (URL:<http://www.biwako-messe.com>)



会場周辺には駐車場がございません。
 びわ湖環境ビジネスメッセには公共交通機関でお越し下さい。



JR北陸線 田村駅より 徒歩約5分

- WEBからお申し込みいただけない方は滋賀バイオ産業推進機構事務局へご連絡ください。
- 定員を超えた場合はお断りさせていただくことがあります。
- ご記入いただいた個人情報は、主催団体および関係者による事業やイベントに関わる案内等の情報提供および事後の調査・分析等のみに利用し、その他の目的には一切使用しません。

お問合せ先 滋賀バイオ産業推進機構事務局(滋賀県庁モノづくり振興課内)
 【TEL】077-528-3794 【FAX】077-528-4876